教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のＷｉｎ－Ｗｉｎの関係」の構築

東浦町ＳＰ通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 25 号
2025 年 1 月 17 日

編集　緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

雪の日

１月１０日（金)、今年初めての雪が降り、薄っすら積もっていました。今日は、片葩小と緒川小でＳＰさんの活動予定があったので、午前中に行ってきました。（この時も雪がちらつき、本当に寒かったです……。)「雪も降って積もってきているし、もしかしたらＳＰさんも来られないかなあ」なんて思っていましたが、２人とも私が到着した時にはばっちり活動に入ってくれていました。ありがとうございました。

緒川小　梶川ＳＰ

養護教諭を目指している梶川ＳＰ。「梶川ＳＰ、とっても良いです！」と学校の先生からもお墨付き！この日は、養護教諭の先生からＰＣでの打ち込み作業を頼まれていました。「教師の仕事は、想像以上に事務仕事が多い」と聞いたことがあるかもしれません。学生の内から実際にやってみて、効率の良い方法を見つけておくと、現場で役立つこと間違いなしです。「リアルな子どもたちの姿を前にして現場の先生から指導してもらえたこと、実際の業務に関わらせてもらえたことで、４月から何とかやっていけました。ＳＰの経験が生きています。」とシニアＳＰ（現役の養護教諭）も以前話してくれました。梶川ＳＰは現在大学２年生。これからいっぱい緒川で、東浦で学んでいってください！

片葩小　水谷ＳＰ

「今日は雪のため歩きで行きます。いつもより少しだけ遅れてしまうかもしれません。」と朝一で連絡をくれました。雪が降りしきる中、歩いてきてくれたそうです。子どもたちがソワソワ・ふわふわしがちな雪の日。こうしてＳＰさんが来てくれると、何だかホッとします。

１年生の道徳の授業に入っていた水谷ＳＰ。教室を広く見ながら、気になる子たちに静かにそっと声をかけてくれていました。さりげない支援が上手なＳＰさんです。